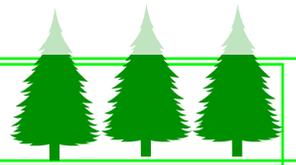


みつぎ便り



第219号 12月号 令和6年12月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ケヤキ

大木で背の高い木で上にすくすくと枝を伸し、立ち姿がとても美しい木です。見次公園には十本以上のケヤキがあります。

落葉広葉樹に分類され、春は一斉に葉を芽吹かせ、夏はセミが集まる涼しげな木陰を作り出し、秋になると赤い葉っぱを落葉させ、冬になるときれいなシルエットの木立を見せてくれる、日本の風景を作り出す存在です。

檜けやきの名称の由来には、けやきき木けやき || ひとときわ目立つ優れた木、美しい

木という意味があり、別名檜つぎという名前は、ツギツギ強き木、丈夫な優れた木という、意味合いがあるそうです。

古くから材木としての強さと美しさは珍重され、耐用年数は八百年、千年もあるケヤキは神社仏閣、城の建材として使われることも多く、あの清水の舞台を支えている木材にもケヤキが使われているそうです。

また和太鼓に最適な木材でもあるそうで、音を反響させやすい弾力と重さ、強度と耐久性、そして美しい木目、使い込むほど艶がでて深みが増す質感もあり、最高の木材とされているそうです。(千)

モツゴ

見次公園の池にはコイやフナなど色々な魚が住んでいて釣り好きの人を楽しませています。そんな魚の中でモツゴという種類がいます。

モツゴは、コイ目コイ科モツゴ属の淡水魚の一種で、地方によつてクチボソと呼ばれるが、これは口がオチボソクチボソと小さく、細長いためにつけられたものです。ストレスにも強く水質汚濁や環境変化への適応力が高いので、富栄養化が進行した湖沼



や護岸河川、公園の池など都市周辺部においてもよく見られます。

モツゴは体長が八〜十一センチ前後で体色は銀白色で体側線に明瞭な黒帯が一本入っているのが特徴です。食性は雑食性で、アカムシ(ユスリカの幼虫)などの小型水生昆虫やプラントトン、附着藻類などを摂食し、一年で成魚となり、寿命は約三年ほどです。

私も六十五年ほど前の子供時代にこの池でアカムシを餌にして釣ったり、四ツ手網などを使ってクチボソを沢山獲った楽しい記憶があります。(昭)